

井上端木略年譜と関連事項

和暦	西暦	年齢	事跡
明和 5	1768	1	9月20日戌の刻、井上五蔵の子として倉敷村に生まれる
			10月12日 母・くら没す
			父五蔵が、くが(政子)を妻に迎える
寛政 7	1795	28	宮崎屋の家督を継ぐ
享和 3	1803	36	父五蔵死去
文化 4	1807	40	8月～9月 義母・政子とともに京都に滞在
文化 6	1809	41	大原四郎右衛門信好倉敷代官となる。手附公事方・小林金之助
文化 9	1812	44	母政子死去
文化14	1817	50	岡山藩主・池田斉政の能楽会に召されて上演。賞賜を受ける
文政元	1818	51	大草太郎右馬政郷倉敷代官となる
文政 3	1820	53	端木、年寄役を退役する
文政 4	1821	54	このころ上京するか？
文政 5	1822	55	『平安人物志』に文人画家小原広輔として名前が載る
文政 7	1824	57	江戸へ出て役人たちに御下銀の内願をする
			小林金之助宅に滞在し浅草など江戸見物。大原代官の屋敷を訪ねる 新禄の者たちが江戸へ行き駕籠訴におよぶ
文政 9	1826	59	5月10日 大草代官死去(病と発表され公表は文政11年)
文政10	1827	60	8月1日 青蓮院門跡から法橋位の補任状・朱印を給わる
			倉敷村役人が入札で選ばれるようになる。年末入札が行われる
文政11	1828	61	3月 歌集『鄙塵集』を記す
			法橋叙任を代官所から咎められ位を取り戻そうと画策する
文政13 (天保元)	1830	63	7月2日 京都大地震起こる
			古橋新左衛門忠良倉敷代官となる。元締手附・宇佐美律右衛門
天保 3	1832	65	9月4日 青蓮院宮尊宝法親王薨去
			9月7日 池坊養道没す。墓参して和歌を手向ける
			9月27日 数度発作を起こしていた妻鼎子が死去
天保 6	1835	68	妙見宮修繕発起人総代となり奉納額の費用を鶴の絵を描いて勸化
天保 7	1836	69	8月23日 古橋代官の死が発表される。元締宇佐美、倉敷を去る前に献金を命令
			築山茂左衛門倉敷代官となる
			この頃米価高騰・疫病流行。病死者餓死者多数。天保の飢饉
天保 8	1837	70	2月18日 大坂船手奉行・本田大膳の屋敷に招かれ演奏
			2月19日 大坂滞在中大塩平八郎の乱の風聞に接す
天保 9	1838	71	2月4日 倉敷村稲荷町大火
天保10	1839	72	豊熟都踊り大流行
天保11	1840	73	8月16日子の刻 大坂玉水町天満屋喜右衛門宅で死去
			8月25日 井上家で葬儀

※『新修倉敷市史』第3巻、『倉敷市史』第6冊、その他井上家文書より作成